

2017 年度

(平成 29 年度)

学 校 情 報 の 公 表

(自 己 評 価 結 果)

2018 年 5 月 16 日

学 校 法 人 川 原 学 園

東 京 動 物 専 門 学 校

目 次

1. はじめに	1
2. 学校概要	1
3. 教育活動	2
4. 学業成果	3
5. 学生支援	4
6. 教育環境	4
7. 学生募集	5
8. 財務	6
9. 地域貢献・地域連携	6
10. 表	
表1 平成29年度 卒業生就職状況	
表2 平成29年度中に学校主導で取得した資格	
表3 過去7年間の自主退学者数と退学時期	
表4 学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその延べ件数	
表5 八千代本校舎 学生利用施設	
表6 富里実習施設主要動物舎	
表7 富里実習施設教材動物	
表8 看護実習用設備、及び備品	
表9 財務消費比較表（5カ年）	

1. はじめに

東京動物専門学校は、1987年東京都三田に東京動植物専門学院としてスタートし、1990年千葉県知事より専修学校の認可を得て、学校法人川原学園、東京動物専門学校として開校しました。開校にあわせて千葉県八千代市に八千代本校舎、富里市に富里実習施設も完成し、動物管理技術者を養成する専門学校として今日に至っております。

学校創設から30年経過し、多くの卒業生が北海道から九州沖縄まで全国各地の動物園や水族館をはじめ、多くの動物関連施設にて働いております。

また2013(平成25)年には更なる職業教育の充実を図る観点から、企業等との密接な連携を図り、最新の実務の知識等を身につけられるよう教育課程を編成し、より実践的な職業教育の質の確保に組織的に取り組む専門課程を文部科学大臣が「職業実践専門課程」として認定する制度ができ、東京動物専門学校(以下本学)も2014(平成26)年3月にその認可を受け、職業教育やキャリア教育の充実に努めております。学校情報についても従前通り公表する次第です。

2. 学校概要

(1) 校訓

東京動物専門学校の校訓は「心・知・技・体」です。これは、動物管理技術者に必要な仕事、または動物に対する正しい考え方(心)、最小限必要な知識(知)、基本的な技術(技)、及び健康な体(体)をバランス良く兼ね備えた技術者を育成することです。このうち、学校の授業で教授できるものは「知」と「技」であり、「心」と「体」は2年間の学校生活を通じての様々な体験より身に付くものであると考えております。

(2) 学校の歩み

① 学校誕生

東京動物専門学校は、川原鳥獣貿易株式会社が母体となっております。前理事長川原義郎は、全国の動物園や水族館からの要望に応じて世界中から動植物の調達等を取り扱ってきました。その仕事を通じて、これらの動物の飼育現場には、動物に対する正しい知識と技術をもった人材がますます必要になると感じ、動物の飼育や看護の専門技術者を養成する学校を設立したものです。

② 学校の概要

名称 学校法人 川原学園 東京動物専門学校
住所 〒276-0046
千葉県八千代市大和新田1093番8号
TEL 047-459-0511 (代)
フリーダイヤル 0120-010520

沿革	1987年 4月	前理事長の川原義郎が東京都三田に東京動植物専門学院を設立し、開校
	1989年 12月	八千代本校舎完成
	1990年 2月	富里実習施設完成
	1990年 3月	千葉県知事より専修学校の認可を得て、学校法人川原学園を設立し、植物部門を廃止すると共に、東京動物専門学校と校名を変更
	1990年 4月	東京動物専門学校開校
	1992年 3月	本校新校舎完成
	1993年 4月	学科を統合し、コース制を導入
	2014年 3月	文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認可を受ける
	2015年 4月	東京動物専門学校 動物管理科 各学年 140名に学則変更

課程 動物管理専門課程 動物管理科 動物飼育技術者コース

3. 教育活動

(1) 教科数、体系と目標

授業教科は2年間、49科目数、87単位で構成されております。2年間での総授業時間2451時間で、内講義は945時間、実習は1506時間。詳しくは、職業実践専門過程の基本情報にて、授業科目等の概要を示しております。

2016年より前期に1学年を対象に、上野動物園・多摩動物公園・葛西臨海水族園を専門講師の案内による特別授業を開始し、関連科目との連携授業を行っております。また10月には宿泊を伴う動物園・水族館等の施設見学会を行い、進路決定の手助けにと就職を目指した活動とすると共に、見聞も広めています。

施設研修(インターンシップ)を2年次後期に実施しております。そこではプロの仕事を実習・体感します。職業教育協定書(事業契約契約書)を締結した事業者のもとにて、基本的には4週間(総時間数182時間)の動物飼育実習分野における実践的な職業教育を受け、就職に結びつけております。

(2) 資格試験(各種資格)

潜水士/ダイビング、危険物取扱者(乙種)及び赤十字救命法救急員講習会、玉掛け技能講習について、取得方法の指導、試験についての相談、アドバイス等、資格取得講座を開設し希望者には受講させています。

(3) 教職員

2017年(平成29年)5月1日現在の教職員数は、総数で32名。

教員数 26名(本務 11名 兼務 15名)

職員数 4名(本務 4名 兼務 0名)

2017年度では、新入学生153名と増加しましたが、教職員体制は前年と同様な体制を維持しております。

職業実践専門課程では、教職員の研修を強く求められております。当校でも研修体制を充実させ、数年前より全国各地の動物園・水族館などの施設を回っては、研修を重ねるとともに、高校校長による現在の学生気質の特性などの講義も受けております。

4. 学業成果

(1) 就職指導

① 就職指導の方法

本校での就職指導は、大別して3つの方法で行っております。

第一の方法は、全体指導です。1学年に入学した時点から、全学生に「就職の手引き」を配布すると同時に、教育課程の進行状況に合わせて就職に対する準備の方法を指導しております。

第二に「就職ガイダンス」なる就職窓口を、学生課が週1回の割合で授業時間をさいて開き、個人的に就職の相談にのっております。

第三は、2学年後期（実践段階）に行われる施設研修です。学生が具体的に就職を希望する施設（企業）を決定し、学校が職業教育協定書の締結及び研修の申し込みをし、許可が与えられた場合に約4週間にわたって研修するものです。

専門学校で学ぶとは、就職することとが結びついていることでもあります。就職指導は非常に大切ですが、それ以上に学生には専門知識・技能を学ぶことの大切さを絶えず教示しております。

② 就職状況

表1に2017(平成29)年度卒業生の就職状況を示しました。平成29年度卒業111名(就職希望者109名)で就職者数は109名、就職率100%でした。

就職先は動物関連業種であり、その内、動物園、水族館は46名(42%)であり、他には、観光牧場、馬関連施設、酪農・畜産、実験動物、動物病院、ペット関連等非常に多岐にわたっております。

(2) 資格取得状況

表2に2017年度の学校主導で取得した資格状況を示しました。国家資格の危険物取扱免許(乙種)、潜水士については、1学年次にて取得しています。特に国家資格取得のための補講は強化しております。民間資格の赤十字救急法救急員については、大半の学生が取得しており、緊急時での初期対応に役立つものと期待しています。また2015年度より玉掛け技能講習を実施し、就職後即役立つ実践技能として習得させております。

(3) 自主退学者の状況

表3に2011年より2017年までの7年間学年次別、学期別に自主退学者数と退学率をまとめました。2016年度入学学生では、1学年次で10名、2学年次で7名が退学し、退学率は

12.5%でした。2017年度入学学生では、1年次で8名とほぼ前年と同様な退学率です。2016年では2010年以降減少していた退学率が上昇しましたが、数年前に比べれば低い値です。自主退学の理由として、進路変更、健康上の都合等であり、例年と同じです。

5. 学生支援

(1) 学生相談

表4に、学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその延べ件数を2016年度2017年度と並列して示しました。

全体の件数は、1学年では前年に比べて定期試験、健康関係を除いては減少しています。しかし定期試験、健康関係では例年と比べても多い件数です。2学年では定期試験を除いては減少しているものの、2016年度件数ゼロの内容項目が、4項目については数件となり、また出席率・定期試験では前年より増加しています。内容別では出欠席、定期試験の件数が多く、例年通りです。学生からの相談というより、指導で件数が多くなっております。

私生活関係では特に1学年に健康面での相談が多く、全国から学生が集まっており、自宅を離れ、寮やアパートなどでの不慣れな新しい生活による健康状態での変調が出てきて相談となるものと思われまます。

個々の学生の「心」と「生活態度」問題には、組織的に対応しており、従来の学生とは異なり、大きな問題を抱える学生は見られておりません。しかし、動物飼育者として、余りにも優しすぎる、心の弱い者もおり、適時指導を行っております。

(2) 経済支援

① 特別奨学金制度

学生に対する経済的な支援体制のひとつとして、学費を無利子で貸与する学校法人川原学園特別奨学金制度を設けており、学費を無利子で貸与する制度です。

② 独立行政法人日本学生支援機構による奨学金制度

公的な奨学金制度を学生紹介するとともに、懇切丁寧に相談に対応し、経済支援をしております。

6. 教育環境

(1) 八千代本校舎及び学生利用施設

講義による知識の習得の場としての八千代本校舎は、1989年(本館)及び1992年(新館)に建設され、教室の面積によりコース別講義室(本館)と学科講義室(新館)に分かれております。

また学生利用施設として、自習施設(図書室)、福利施設としての学生ホールも備えている。詳細の面積等については、表5に示す。

学生数増加に伴い、教室内に大型TVを設置し、映像による講義の効果を高めており、学生には好評です。また数年前に取得した隣接地には芝生による緑化を計り学校祭などの使用

時には非常に好評です。また 2017 年には学生ホールで快適に休憩や食事がとれるテーブルを一新しました。

(2) 富里実習施設

表 6 に富里実習施設の主要動物舎面積を示しております。動物舎は第 1 号より第 2 2 号まで 2 2 棟あり、そのほかに放飼場、馬場、馬放飼場、付属農園があります。これらの動物舎は、本校の学生が動物舎の構造を実際に理解できる目的で、学生等の実習を兼ねながら手造りしたものが多く、体験実習の成果であります。また展示施設ではなく、あくまでも飼育施設であり、動物福祉に配慮した構造としております。

表 7 には、富里実習施設において飼育している教材となる動物を、哺乳類から鳥類、は虫類、両生類、魚類まで 240 種類 1,677 点 (2017 年 3 月末) 動物園や水族館等で飼育されているような動物が実習に供されています。

(3) 実習用設備及び備品

実習設備及び備品を表 8 に挙げました。

(4) 防災対策

毎年 7 月に八千代校舎にて、近隣の消防署の協力を得て、火災防災訓練、1 2 月に地震防災訓練を実施しております。対象者は、学生及び教職員全員です。

7. 学生募集

(1) インターネットでの情報提供

インターネットのウェブ上で、ホームページを開き学校紹介を行っており、学校案内、学べること、キャンパス紹介、卒業生の活躍、オープンキャンパス案内、最新情報ブログなど内容は、随時最新の情報に更新しております。また資料請求や問い合わせもウェブ上でできるようになっております。

(2) オープンキャンパス

① 学校説明会

学校説明会は、八千代校舎にて行い、学校及び学校生活全般の説明のほか、入学試験、学費、就職のことなど、なんでも質問できるようになっております。また校舎内の施設見学も併せてでき、学校内容を十分に理解、納得した上で試験に臨むよう入学希望者に説明しています。学校説明会は、毎年 3 月より 2 月まで 10 数回実施しました。

② 授業見学

八千代校舎にて実際に学生が学ぶ様子を見学するもので、学校の雰囲気を感じることが出来ます。また休憩時間には、在学生と話すこともでき、若者同士による情報交換の時でもあります。授業見学は月～金曜日まで事前予約にて受け入れております。

③ 体験入学 (実習体験)

富里実習施設の実習施設で実施している飼育実習の一部、動物のエサづくりやエサやり、乗馬体験などが体験できます。体験入学は、6 月～9 月の日曜日に 7 回ほど開催し、施設

見学も体験入学実施月以外の時期に開催しており、どちらも事前予約が必要です。

(3) 学校訪問

関東圏の高等学校には庶務課と学生課の職員が訪問し、学校の進学担当者に直接面会し、学校案内に従い情報提供するとともに、受入れ募集を依頼しています。

8. 財 務

表9に財務消費比較表にて平成25年度より平成29年度までの過去5カ年分を示しました。この数年間は毎年150名前後の学生を確保しており、収入の大半を占める学費等の収入も横ばいで安定しています。財務健全化には消費支出の抑制も必要ですが、その大半は固定的経費であり、今後共経年劣化する建物の維持管理費の捻出が必須でもあり、入学生の確保は、専門学校の維持管理には必須の要件です。

近年NHKをはじめTV取材が多くなり、マスメディアへの露出が学生募集には貢献していると思われます。

9. 地域貢献・地域連携

学 校 祭

2017年9月22日から24日までの3日間、八千夫校舎内及び校庭にて、学校祭を実施し、延べ1万7千人の来場者で賑わいました。富里実習施設から動物を移動し、動物専門学校でなければできない内容であり、動物とのふれあい、エサやり、乗馬体験、動物たちのショーなどを実施しました。近隣より多くの人々の来場があり、楽しい3日間のイベントとなりました。実施している学生も楽しみ、また来場者も大いに楽しんでおります。学校周辺の住民増加が来場者増加の大きな要因と思われますが、ほぼ限界に近い状況になりつつあり、混雑解消対策が必須の課題です。

この学校祭は、開校以来継続的に学生が主体となり、企画立案・作成準備・実施といった過程をこなし、運営するものであり、学生たちのコミュニケーションやリーダーシップなどの養成に大いに役立っています。(写真 学校祭の様子)



表 1：平成29年度 卒業生就職状況

卒業生数：111名 (就職希望者数：109名)
 就職者数：109名
 就職率：100%

就職先分野	企業数	求人数	就職者数
動物園	56	126	39
水族館	32	55	7
観光牧場	15	55	11
馬育成・管理	28	109	6
酪農・畜産	78	175	8
実験動物	8	38	4
動物病院	219	465	6
愛玩系動物販売	18	53	19
動物訓練	4	31	0
動物ふれあい施設	3	3	2
その他動物関連	12	39	3
動物関連外	15	233	4
総合計	488	1,382	109

※ 2018. 4. 20 現在

就職先分野	主な就職先
動物園	札幌市円山動物園、仙台市八木山動物公園、飯田市立動物園、※千葉市動物公園、※上野動物園、※羽村市動物公園、※大島公園動物園、※横浜市緑の協会、※埼玉県こども動物自然公園、※日本平動物園、※周南市徳山動物園、※のいち動物公園、※海の中道海浜公園動物の森、東北サファリパーク、那須どうぶつ王国、宇都宮動物園、群馬サファリパーク、宝登山小動物公園、富士サファリパーク、伊豆アニマルキングダム熱川バナナワニ園、富士花鳥園、加茂荘花鳥園、大内山動物園、神戸どうぶつ王国、姫路セントラルパーク、秋吉台サファリランド
水族館	京急油壺マリンパーク、伊豆三津シーパラダイス、※アクアパーク品川、※アクアワールド茨城県大洗水族館、※伊勢シーパラダイス
観光牧場	ハーモニーセンター、マザー牧場、成田ゆめ牧場、南が丘牧場、ワールド牧場、モーモーファーム竹原牧場、パソナふるさとインキュベーション
馬育成・管理	ノーザンファーム、乗馬クラブクレイン、エルミオーレ埼玉、ユタカファーム
酪農・畜産	伊藤畜産、中条たまご、那須千本松牧場、加藤牧場、小堀屋畜産、農事組合法人大権牧場、ラブリー牧場
実験動物	JTクリエティブサービス、三協ラボサービス、ジェーエーシー、京都大学野生動物研究センター熊本サンクチュアリ
動物病院	アニマルメディカルセンター、中馬動物病院、レイ動物病院
愛玩系動物販売	ペットのコジマ、ペットワン、AHB、ペットファース、吉田観賞魚販売(株)、ハナモペット、ジョイフル本田
動物ふれあい施設	鳥カフェ、もふもふふれあい動物園
その他動物関連	しおん保育園、ピースワンコジャパン、(株)青空

※印は、契約職員等又はアルバイト契約(更新条件付)

表2：平成29年度中に学校主導で取得した資格

資 格 名	資格の区分 国家、民間資格	取得者数（人）	
		1学年次学生	2学年次学生
危険物取扱免許（乙種）	国家	29	3（33）
潜水士	国家	31	2（57）
赤十字救急法救急員	民間	149	0（122）
玉掛け技能講習	国家	149	0（129）
小型船舶操縦士	国家	0	1
フォークリフト	国家	0	1
		358	7
	合 計	365	【28年度 376】

（ ） 昨年度1学年次に取得した者

表3：過去7年間の自主退学者数と退学時期

							単位 (人)
入学年度	入学者数	退学者合計 (退学割合%)	1学年 前期	1学年 後期	2学年 前期	2学年 後期	留年者
2011年	136	28 (20.6)	10	11	1	6	2(自主退学)
2012年	158	26 (16.5)	6	13	3	4	特別コース1 休学 1(自主退学)
2013年	150	27 (18.0)	6	15	5	1	
2014年	152	18 (11.8)	3	10	3	2	特別コース1名
2015年	155	12 (7.7)	4	4	3	1	
2016年	128	16 (12.5)	4	5	5	2	特別コース1名
2017年	153	8 (5.2)	3	5			

表4：学生課が扱った学生の相談、及び指導内容とその延べ件数

内 容	1 学 年 (件 数)		2 学 年 (件 数)	
	2016年度	2017年度	2016年度	2017年度
学 校 関 係				
学 校 生 活 全 般	26	21	0	2
進 路 変 更	3	2	0	7
友 人 関 係	0	0	0	0
出 欠 席	59	43	56	64
定 期 試 験	70	118	44	29
学 外 研 修	0	0	0	13
私 生 活 関 係				
健 康	5	24	0	8
私 生 活 全 般	2	0	0	0
将 来 へ の 不 安	0	0	0	0
	165	208	100	123

5：八千代本校舎 学生利用施設

校舎	用途	名称	面積 [m ² (坪)]	備考
本館	コース別講義室	102教室	60.75 (18.37)	
		201教室	60.75 (18.37)	
		301教室	60.75 (18.37)	
		302教室	60.75 (18.37)	
	自習施設	図書室	33.77 (10.21)	※1
新館	学科講義室	103教室	60.325 (18.24)	
		203-1教室	120.65 (36.49)	※2
		203-2教室	120.65 (36.49)	※2
		303教室	279.30 (84.48)	
	福利施設	学生ホール	112.825 (34.04)	

※1：蔵書数（2017年3月31日現在） 2,029冊

※2：203-2教室（203-1）と合わせて、教室として使用可。

表6：富里実習施設主要動物舎

名 称	面 積(m ²)	(坪)
第 1号 動物舎	167.2	50.58
第 2号 動物舎	109.5	33.12
第 3号 動物舎	193.9	58.65
第 4号 動物舎	281.4	85.12
第 5号 動物舎	182.6	55.24
第 6号 動物舎	270	81.68
第 7号 動物舎	236	71.39
第 8号 動物舎	132.2	39.99
第 9号 動物舎	132.2	39.99
第10号 動物舎	207.7	62.83
第16号 動物舎	67.5	20.42
第17号 動物舎	34	10.29
第18号 動物舎	32.4	9.80
第21号 動物舎	50.8	15.37
第22号 動物舎	20.9	6.32
牛 舎	64.8	19.60
放 飼 場	3,300	998.25
馬 場	2,000	605
馬 放 飼 場	2,067	625.27
付 属 農 場	17,088	5,169.12
合 計	26,638.1	8058.03

各獣舎の広さは運動場を含まず

表 7 : 富里実習施設教材動物

網名	種	点数
哺乳網	7 8	6 5 0
鳥網	1 2 6	9 5 0
ハ虫網	2 2	4 6
硬骨魚網	1 4	3 1
合計	2 4 0	1 , 6 7 7

(2018年3月末現在)

表 8 : 看護実習用設備、及び備品

	設備及び備品名称	数量		設備及び備品名称	数量
1	AC-1325付カテーテル型	1	28	耳鏡セット アンテナ付	6
2	入院用ケージ	1	29	眼鏡セット	1
3	体重計診療台	1	30	ウッド灯	1
4	手術台	1	31	尿比重計	1
5	動物全身麻酔装置	1	32	卓上タンパク比重計	1
6	心電図モニター	1	33	タンパク屈折計	1
7	レントゲンシステム	1	34	ヘマトクリットリーダ	5
8	レントゲンカセット	9	35	血球計算版(3種類)	17
9	シャウカステン	1	36	黄疸指数計	2
10	グリット	1	37	聴診器(学生用)	20
11	プロテクターグローブ	2	38	聴診器(リットマン)	2
12	プロテクターエプロン	1	39	上皿天秤	1
13	無影灯	1	40	電子天秤	1
14	保育器	1	41	骨格標本	1
15	内視鏡	1	42	模型(眼・耳)	3
16	自動高圧蒸気滅菌器	1	43	C P R D O G	1
17	ガス滅菌器	1	44	術衣・有窓布・無窓布	37
18	ガス滅菌器 カスト	1	45	グルーミング台	17
19	ヘマトクリット遠心機	1	46	シンク	4
20	殺菌線消毒器	1	47	ハンドドライヤー	7
21	顕微鏡(モニター付)	1	48	スタンドドライヤー	3
22	顕微鏡	27	49	毛刈り用バリカン	6
23	スケラー	2	50	シーラー	1
24	輸液ポンプ	5	51	術衣棚	1
25	輸液ポンプ	5	52	器械戸棚	1
26	検眼鏡・耳鏡付	1	53	物置戸棚	1
27	喉頭鏡	1	54	備品戸棚・物品棚	8

表9：財務消費比較表（5ヶ年） 《 案 》

	(千円)				
	平成29年度	平成28年度	平成27年度	平成26年度	平成25年度
事業活動収入合計	379,911	365,591	374,034	358,599	378,229
基本金組入合計額	1,620	12,716	14,040	14,507	24,472
事業収入の部の合計	378,291	352,875	359,994	344,092	353,756
事業活動支出の部の合計	364,703	330,218	334,478	340,575	336,928
当年度事業支出超過額	13,595	22,548	25,516	3,517	16,828
前年度事業支出超過額	△455,126	△477,675	△503,190	△506,707	△523,535
基本金取崩額					
翌年度事業収支超過額	△441,531	△455,126	△477,675	△503,190	△506,707
減価償却費	11,181	12,540	11,831	15,009	14,653
在籍者数(5月1日現在)	272名	276名	294名	281名	289名
教員数(本務・兼務)	26(11・15)名	28(11・17)名	27(11・16)名	30(12・18)名	27(10・17)名
定員に対する現員比較	97.14%	98.57%	122.50%	117.09%	120.42%

自己評価に対する意見書

2018年5月16日

学校法人 川原学園

東京動物専門学校

学校長 北村 健一 様

静岡県富士市厚原1527-5

獣医師 片井 信之

東京動物専門学校は、1990年千葉県知事より専修学校の認可を得てスタートし、2014年には文部科学大臣より「職業実践専門課程」の認可を受け現在に至っており、開校30年を迎えています。

私は大学卒業後一貫として動物園に勤務し、この30余年は静岡にある私企業の動物園施設にて働いておりました。その間東京動物専門学校の第一期卒業生から現在まで多くの卒業生と共に過ごしており、職業実践課程認可に基づき、学校関係者評価委員会及び教育課程編成委員会が発足し、私はその両委員会の委員を嘱託され4年経過しました。それらの委員を通じ、今回東京動物専門学校が作成した自己評価について若干の意見を述べさせていただきます。

1. 自己評価の方法

東京動物専門学校は、2014年文部科学省より「職業実践専門課程」の認可を受け、「専修学校における学校評価ガイドライン」等に基づき誠実に自己評価を作成し、公表しています。なお、東京動物専門学校は認可以前より公表し、昨今の情報化社会で情報の開示が広く求められているので、今後とも情報の開示に向けては積極的に実行して頂きたい。

2. 教育活動

東京動物専門学校への入学生の大半の志望理由は、動物園や水族館の飼育係員になることのようにです。しかし、実際に新生入生に接してみると、動物園や水族館に主体的かつ積極的に行動したことのあたる学生はほとんどいないことが分かり、その対策の一つとして、一昨年より、入学して間もない4月から6月にかけて上野動物園・多摩動物公園・葛西水族園の3園に小グループで専門の解説員付きでの特別授業を行っております。また単なる見学にはせず、課題を持ち、動物研究法等の授業と連携し、見学成果を更に充実させており、学生にとって厳しい授業ではありますが、それが1年先の就職戦線での成果となればと期待しております。

また今までは日帰りで近隣のサファリパークや動物園等の見学会を実施していたが、2017年秋に1泊2日にて福島・茨城県内の動物園・水族館を見学し、その際園館長より直々に講話を受けており、1年生にとって非常に良い体験になったと思います。

動物分野の職種は非常に広く、動物種別から、野生動物、家畜、実験動物、愛玩動物等があり、その生産・管理・サービスといった職域をもっています。また時代の推移とともに、新しく動物を使用したビジネスも生まれており、教育活動もこのような変化を捉えた柔軟なカリキュラムが必要と思われます。

ここ数年の入学者数は140名の定員を充足しており、応募者の中から選抜していますが、学生数増

加による授業方式や実習方法も過去には囚われず、常に、改善や変革が必要です。

3. 学修成果

就職状況について、2017年度は100%と良好ですし、動物園・水族館はかなりの狭き就職先です。希望通りの就職は出来なくてもやむを得ません。しかし動物関連の職種は、非常に多岐にわたる分野をもっています。それぞれの分野が担っている社会的な使命や役割等を学生が理解し、希望をもって前向きに多くの分野で活躍することを期待したい。新たな分野の開拓を含め、期待に胸膨らませて社会に出ていけるのか、就職担当者の指導にかかっています。特に現実は厳しいのですが、安全で安定とした食の提供を担う畜産関連への進出を期待します。

自主退学者の状況もここ数年は改善しており、希望者増加による選別によることも減少の要因と思われる。2016年度入学生に関しては、2年間で16名の退学者となり、2014・2015年度と比べて退学率は高くなっており、入学時の選抜等にも配慮し、注視する必要があると思います。東京動物専門学校は、このところマスコミ、特にTVへの露出が高く、入学生増にも結び付いているものです。しかし安易に進路を決めてはいないか、懸念する所でもあります。

4. 教育環境

富里実習施設は、他の動物系専門学校と比べて、圧倒的な充実ぶりです。施設規模特にそこで飼育している動物は、哺乳類、鳥類、両生・爬虫類といわばミニ動物園であり、ここで飼育実習する学生は羨ましい限りです。実習内容については、学生アンケートでまだまだ課題があるので、特に学生数が増えれば増えただけに問題はあります。効果的効率的な実習を行うためには、職員の目配り・気配りなど大変な努力が必要かと存じます。なお一層の奮起を願います。

また2019年には実習場の講義棟が改築されると伺っており、学生は快適な環境で勉学に励むことを期待します。

5. その他

文部科学省が「職業実践専門課程」の認可を始めて4年経過しました。その認可の成果なりがどの程度でているのか、疑問が持たれます。特に高校での進路指導や職場での取り扱いがまだまだ見えておりません。また公立の動物園・水族館でも職員待遇では、まだまだ改善の余地があります。政府は働き方改革に一生懸命かもしれませんが、若者の処遇には改善の兆しはみえません。専門学校ではどうしようもないことですが、一生懸命勉学に励んだ学生に希望がもてる社会となるよう願っております。

東京動物専門学校は「厳しい」とのことです。しかし、成熟化した社会にあって厳しさは、貴重な存在かもしれません。勉強嫌いの若者を預かり、2年間である程度の実力をつけ、自信をもって社会に送り出すには、厳しさは当然必要です。学生・保護者・そして学校職員の3者が一体となり、信頼関係のもと学生に多くの負荷を掛けた教育も現代では貴重な存在かもしれません。逞しい職業人の育成に今後共励んで頂きたいです。

以上

学校評価（保護者用）アンケート結果

学校評価のひとつとして、学校全体の改善、向上に役立てる目的で、保護者の方々にアンケートへの協力をお願い実施し、その結果を取りまとめました。

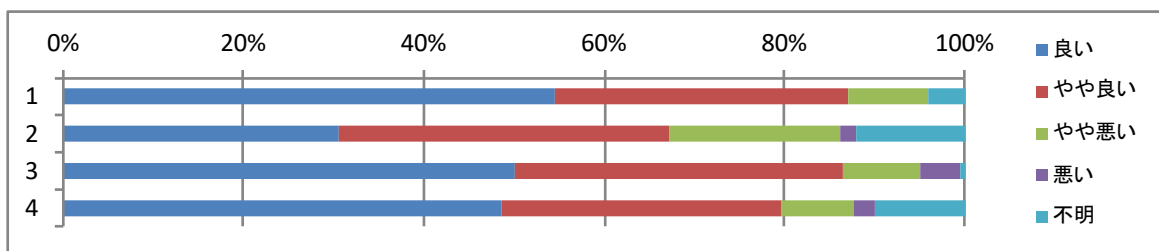
1. 実施方法及びアンケート対象者、評価等

- (1) 2年生（当年度卒業生）保護者を対象にし、99名の回答を得る
2018年3月2日、2017年度卒業式当日 卒業式出席の保護者の母親・父親
- (2) 1年生保護者で133名
2018年3月、1年生にアンケート用紙を配布し、2018年4月の登校日に回収
- (3) 評価は、[5]良い・[4]やや良い・[3]やや悪い・[2]悪い・[1]不明の5段階とし、また今年度も学生と保護者が同居か別居かを記入して頂いた。なお、質問項目は前年と同じです。

2. アンケート結果（抜粋）

(1) 学校運営

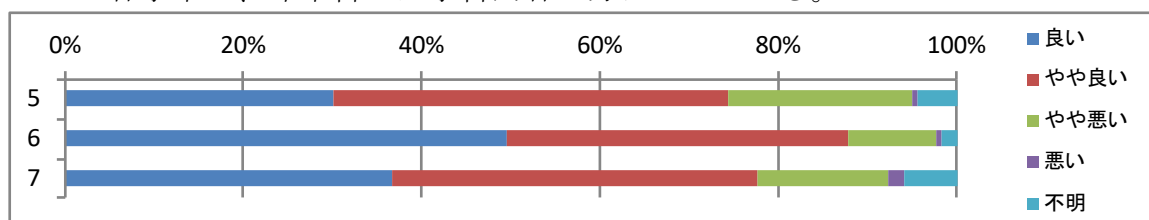
- 1 学校は教育理念である「心・知・技・体」を基礎として教育している。
- 2 学校は保護者の要望に良く応えている。
- 3 学校が保護者に出す文章・事務連絡等はわかり易いか。
- 4 学校窓口や電話での対応は、丁寧・誠実になされている。



学校運営に関する4つの質問の結果ですが、ほぼ前年と同じ結果です。質問2では、他の3つの項目と比べて「良い」の評価が少なく、30%です。但し保護者の要望とは何か、多様な要望が想定され、今後も学生等の要望を踏まえ改善し、より良い学校運営を目指すべきと思われる。

(2) 学習

- 5 子どもは授業が分かりやすいと言っている。
- 6 各専門教科、実習の内容は充実していると言っている。
- 7 各学年で、今年習った学習内容が身につけている。



学習に関しても、前年同様ほぼ満足する回答を得られている。質問5・7では、満足が50%を切っており、やや悪いに20%前後あり、特定の教科では学生の評価もそれなりに改善の必要性のある結果であり、対応が必要。

3. まとめ

- (1) 質問事項は、学校運営4項目、学習3項目の他に、教育指導4、学校生活3、環境整備3の全部で17項目。アンケート結果は、前年とほぼ同様な回答でした。

- (2) 全ての項目の結果で、「やや満足」以上が70%を切ったのは、質問2「保護者の要望」のみであり、保護者からは支持されている結果となっている。
- (3) 学生アンケートの結果等も踏まえ、学習環境の整備し、学習成果や学校生活の快適性の向上となり、結果的に学生が望む就職に結びつく様、学校と保護者が一体化した運営を目指すよう期待する。